

ジャパンリビルト

多様なニーズに応える 自社生産のリビルド部品

ジャパンリビルト（田中勝弘社長）はパワートレーンから電装品、気化器関連まで年間50万個のリビルド部品を自社工場で一貫量産する。I A A Eには初回から10年連続での出展となる。自社生産する約30アイテムのリビルド部品を一堂に展示。「顧客のあらゆるニーズに応える」豊富な商品を披露する。

同社が扱うリビルド部品は全てを自社生産するのが特徴だ。大阪府堺市と岸和田市、栃木県の3カ所の工場で年間50万個を生産。岸和田工場の近くに完成した大型コアセンターでコアを保管している。さらに、2009年には岸和田市に流通センターを新設し、生産から流通までを一括管理する体制を整えた。

加工技術の向上にも力を入れる。本社工場（堺市）に隣接した技術開発センターでは、ドライブシャフトのアウトターベアリングなど、部品再生に必要な素材加工まで行う。高度な技術が求



められる非分解部品の開発が評価され、財団法人クリーン・ジャパン・センター（C J C）の「資源循環技術・システム表彰」の会長賞も受賞した。

今回のI A A EではA Tミッションなどパワートレーン関係、シリンダーヘッドや噴射ポンプなどエンジン・フューエル関係、セルモーターなどエレクトロニカル関係と、同社が自社生産する全ての商品を展示。「修理に必要な再生部品は何でも揃える」姿勢をアピールする。

<http://www.japanrebuilt.jp>